

<牧会ミニ通信>No.26      2020・11・1

「周東のぞみキリスト教会」は、来春、「日本同盟基督教団」加入が見込まれています。この教団の歴史的背景を簡単に述べおきます。

「F・フランソン」が、1891年、シカゴ市に、北米スカンジナビアン・アライアンス・ミッションを組織して、支那に52名、日本に15名の宣教師を派遣したことが、そのスタートとされています。

宣教師一行が日本に到着したのは1891年、その前年に「明治欽定憲法」が公布されており、年明けて内村鑑三の不敬事件が起こり、キリスト教に対する逆風が吹いていた年に当たっています。

F・フランソンは、未伝地伝道に対する幻を抱いていた宣教師でした。来日すると、当時の日本の教会指導者の一人、霊南坂教会の小崎弘道牧師に、日本にある伝道未伝地があれば教えてほしいと助言を求めています。

未伝地として挙げられたのは、「飛騨地方」・「伊豆7島」・「アイヌ地区」の三カ所です。「飛騨高山」は、江戸の天領地です。日本のチベットとも称されていました。四方は山々に囲まれた閉鎖された地区です。しかも、神社仏閣が多く、現在でも年間12回、僧侶を家に招く習慣があるといいます。

「伊豆7島」は流人の島として有名です。現存している伊豆7島の日本基督教団の諸教会は、旧同盟協会が開拓した教会であります。

アイヌについては記録がありません。

宣教師と牧師・信徒との協力により生み出された諸教会は、1922年10月「日本同盟基督協会」を組織します。しかし、「宗教団体法」（昭和14年）の施行にともない、戦時体制の下、1941年に「日本基督教団第八部」に所属しました。戦後、日本基督教団を離脱し、1948年10月に「日本同盟基督教団」として新たな出発をして今日に至っています。

同盟教団の宣教目的は「聖書信仰、宣教協力、合議制」にあります。聖霊による宣教命令に応えて、「日本とアジアと世界」の果てまで福音を宣べ伝える使命を、「フランソン・スピリット」と言われてきました。

2019年現在、教会数268、教師数429、信徒数12461、受洗者273。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次